

課題	テーマ	解決手法	実際の取り組み
●海の生き物をとりまく課題	ゴミ・流木の問題	・干潟・水辺のゴミ、流木対策検討に向けた調査を行う。	・流木、人由来、生物影響ゴミの3種類を調査し、発生源を検討した。(平成25年) ・西の浜と佐久島で他団体や山・川部会メンバーと連携してゴミ・流木調査を実施し、漂着ごみの実態把握と問題意識の共有化を図ることができた。(平成26年) ・山部会と協働して、東幡豆のトンボロ干潟周辺のゴミの現状を確認した。(平成27年) ・海ごみ・川ごみの問題について、全国的な活動を実施している一般社団法人JEANおよび全国川ごみネットワークから、ごみ問題に関する最新の知見について、情報共有を行った。(平成28年) ・愛知県が取り組むごみ学習プログラムの内容について情報共有を行った。(平成28年) ・22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会主催の「藤前干潟エクスカージョン」に参加し、藤前干潟の清掃活動やごみ焼却場を見学した。(平成29年)
	豊かな海の生物調査	・市民、学識等の様々な調査より学習・分析する。  ・三河湾のアサリの資源回復に関する現状について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。	・ハンドブック等を活用して、東幡豆天然干潟、西浦地区人工干潟の2地点において、生き物調査を実施した。(平成25年) ・三河湾の干潟・浅瀬造成に関する行政計画や事業内容、愛知県が実施した海底ごみ・生き物調査の結果を情報共有するとともに、鳥類調査を通じて干潟や背後の土地利用の問題を共有した。(平成26年～平成29年) ・山部会と協働して、干潟の試験造成後の生物相の変化を把握した。(平成27年～平成29年) ・海の栄養塩の問題に関する最近の話題として、流入負荷削減と海の水産資源の関係性について学んだ。(平成29年) ・八郎潟や油が淵での水質浄化に関する研究事例と水質浄化対策の技術的課題について情報共有した。(平成29年)
	豊かな海の再生	・三河湾のアサリの資源回復に関する現状の課題について認識を共有し、解決に向けた取り組みを検討する。	・アサリの減少原因を追究されている吉田漁業協同組合の石川組合長より、三河湾の現状について報告いただいた。 ・合同部会では、三河湾の現状を山部会、川部会に対して情報共有を行った。(平成29年～平成30年)
●海と人の課題	海と人の絆再生	・心理的・物理的アクセス改善、学校等との連携を図る。	・さまざまな場面でのアンケート調査等を通じて、子どもや保護者の海に対する意識やニーズを把握することができた。(平成26年) ・山部会との合同会議では、漁業者との懇談を行い、水質や砂の問題や新たな担い手の問題を検討・共有した。(平成27年) ・流域のイベントへの参加によって、三河湾(海)の生き物が身近なものとなった。(平成28年～平成30年)
	干潟・ヨシ原再生	・川と海の連携による干潟再生を目指す。	・矢作川河口干潟の生き物調査及び矢作ダムの砂の実態調査を実施した。(平成25年) ・矢作ダムの砂を活用した干潟造成の試験施工について、関係機関の協力を得て実現した(H27.3.10矢作ダム砂の投入)。(平成26～平成27年) ・干潟の試験造成後の生物相の変化を簡単な調査を行いながら意見交換を行った。(平成27年～平成29年)

## 【海部会】

## ○できたこと

- ・他部会を巻き込んだごみの現状の確認と問題提起を行った。
- ・人工的で小規模な干潟においても、ある程度の生物相の回復が見込めること。しかし、造成後の生物相は徐々に低下することを確認した。
- ・奥矢作森林フェスティバル、矢作川感謝祭に海の生物を持ち込むことで、海と人の絆再生に貢献した。
- ・他の部会との協働で海ごみの調査を行い、課題を整理したこと。
- ・アサリの不良の現状など三河湾の問題を合同部会等で情報共有を行った。

## ○もう少しでできたこと

- ・海部会が主導となる活動

## ○できなかったこと

- ・他の部会員との認識の共有(共通認識をもつ努力は行った)